

平成 22年 4月 26日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19510268

研究課題名（和文） ジェンダーで読む労働運動 - 近代化過程のドイツを中心に

研究課題名（英文） Worker's Movement from Gender Perspective in the Process of German Modernization

研究代表者 姫岡とし子

(HIMEOKA TOSHIKO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：80206581

研究代表者の専門分野：ジェンダー

科研費の分科・細目：ジェンダー、ジェンダー

キーワード：ジェンダー、労働運動、ネイション、家族、近代ドイツ

## 1. 研究計画の概要

膨大な蓄積がある労働運動史研究が、「性差に関する知の産出と再生産」に寄与してきたので、その読み直しを行い、男性性の構築と関連させた研究を行う。ナショナリズムと労働運動との関連を階層に注目しながら探索する。

## 2. 研究の進捗状況

労働運動が性差の構築や再構築に寄与し、その過程で男性性の構築にも関連してきた点については、論文を完成させている。現在はネイション・階層・ジェンダーの関連について研究し、ナショナリズムを担った市民層が労働運動をどう捉え、とくに女性たちをどのように労働運動から引き離し、ネイション秩序を維持しようとしたかを研究している。

## 3. 現在までの達成度

労働運動とジェンダーの関連に関してはほぼ達成したが、あらたにナショナリズムと階層についての観点を加えたので、その研究はまだ達成半ばである。

## 4. 今後の研究の推進方策

本年度は、主としてネイション秩序の維持という観点から市民層と労働者の対立および働きかけについて考察する。愛国婦人団体といった具体的な市民層の組織が労働向けにどのような活動を展開したのかを検討し、研究を完成させたい。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 6件)

史学会(2007年11月)、日本文化人類学会(2008年6月)、ジェンダー史学会(2008年11月)他

〔図書〕(計7件)

1、『ヨーロッパの家族史』(山川出版社・世界史リブレット・2008年10月)『ヨーロッパの家族史』(山川出版社・世界史リブレット・2008年10月)

2,「はじめに」『労働とジェンダーをめぐる研究視覚の変遷』「ドイツの女性運動と領域分離 - ネイション・右派を中心に」姫岡とし子・川越修(編)『ドイツ近現代ジェンダー史入門』(青木書店・2009年2月) pp. iii-viii, 132-140, 234-253.

3,「ドイツにおける労働者のジェンダー化 - 労働運動の営為を中心に」長野ひろ子・松本悠子編『経済と消費社会 - ジェンダー史叢書6』(明石書店・2009年7月) p.107-122.

他

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕